

常なる磐

つねなる いわ season II

令和3年4月30日(金)

その2

◇ 学級訓に想う

教室掲示は担任に任されている部分が多い中、唯一決められている場所がある。それは教室前面。「黒板上部の掲示」である。

本校は、「常磐東小学校教育計画 第42項 校内環境整備」で明示している。

「授業のルール・発言のルール」「正しい学習姿勢の図・鉛筆の持ち方」を横に配し、教室中央に位置するのが【学級訓】だ。

黒板中央の上、真ん中に掲げる理由は簡単だ。「大切だから」である。

教室中央にあるから、授業中は意識せずとも児童の視界に入る。授業中だけではない。朝の会や帰りの会で語る担任の頭部の上には学級訓がある。つまり、大切な学級訓は、学校生活の中で児童が最も目にしているのだ。

だから、学級訓のある黒板上は、学習の妨げとなる装飾などの余分な掲示をしないことが大切となってくる。「学習の姿勢」や「鉛筆の持ち方」、「授業ルール」が学級訓の脇を固めているのは、ちゃんと理由があるのだ。

自分が学生時代から学級訓はあった。

当時は額縁に入れられたシンプルな「書」がほとんどで、現在のようにカラフルなものではなかった。けれども、校歌とともにちゃんと自分の記憶の隅に残っているから、学級訓の効果は大きく、学校生活の中では重要な存在なのである。

中学校2年生の学級訓は【歯車】。

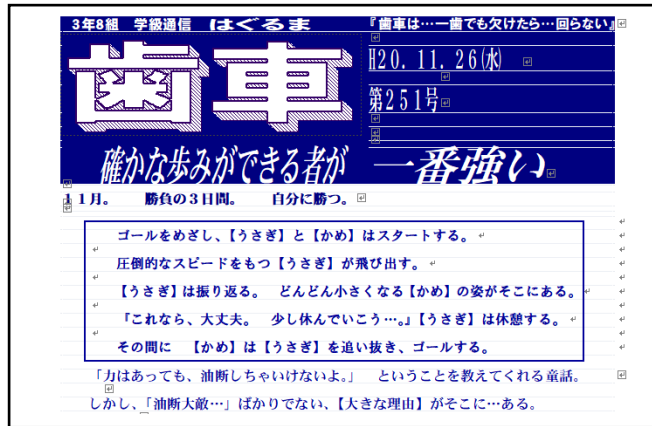
意味は、「歯車の一歯でも欠けたら歯車は回らない」ことから、「全員が歯車の一歯となり、歯車をかみ合わせて（全員で協力して）大きな歯車を回し、前進していこう」というもの。「友」や「努力」などが多い中、斬新なものだったから、特に記憶に深く刻まれている。

時を経て、大学の講義。

教授から、「……歯車は一つ無くなったぐらいで、回らなくなることはない…」『えっ、そうなの…』絶句である。ただし、教授の話はこれで終わらない。「回らなくなることはないのですが、歯がない影響は歯車の各所に負担をかける。そして、ある時、歯車全体が破損するんです…」なるほど、意味は同じである。

時を経て、
担任時代は学級通信を発行した。そのタイトルは、毎年、毎年【歯車】。
【歯車】以外の通信タイトルはない。

これは、中学2年生で授かった教えが生きているということに他ならない。



さて、学級訓の決め方であるが、大きく2つに分けられる。

- ①担任が決める。
- ②児童や生徒が考えを出し、練りながら決める。

どちらもよさはあるが、自分は①の方法で行ってきた。

なぜなら、学級訓を決める時期は学級が集団としてスタートして間もない頃。
児童・生徒は学級や級友の様子も分からず、よって、学級訓に寄せる願いは漠然としたものになりがちだ。ならば、担任がしっかりと方向を示す方が、子供の次なるステップにつなげられやすい。そう考える。

学級開き間もない頃に「めざすべき方向」「進むべき方向」を示すのは、やはり担任なのである。

さて、4年1組の学級訓は「たんぽぽ魂」。

「タンポポ」でも「蒲公英」でもない。「魂」付き。何かしらの理由が必ずある。



学級訓の横に、次のような添え書きがある。

踏みにじられても 食いちぎられても
死にもしない 枯れもしない
その根強さ
そして 常に太陽に向かって咲く その明るさ
わたしはそれを わたしの魂とする

たんぽぽの咲く季節がやってきた。 学級訓その②に続く